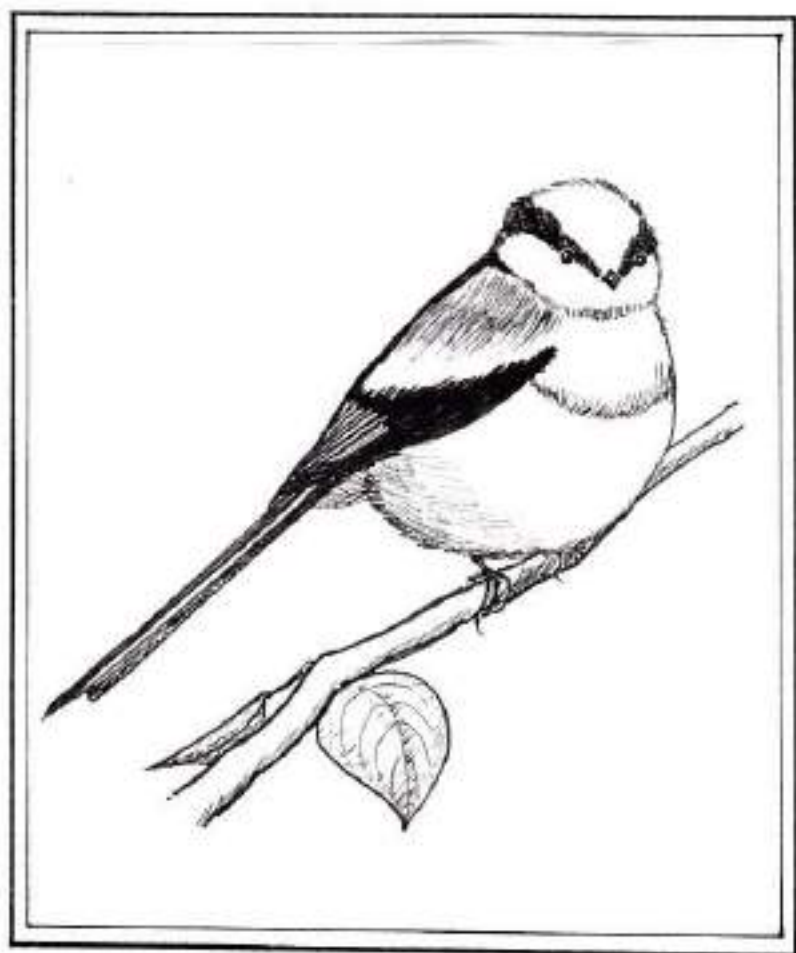


# Interpreter

# Workshop vol. 11

# 森のつうしん



府民の森パークレンジャー

1998

# Interpreter Workshop

## — 目次 —

○表紙	西出
○目次	
○特集コーナー	
・ 今回の特集は、“冬といえば雪”という訳で5人のレンジャーに「雪」を題材に文章を書いてもらいました。	Page
「雪・雪・雪」	北村 2
「ゆきのはなし」	山下 3
「雪が降れば」	角野 4
「雪」	山田 5
「雪について」	松澤 6
○春の植物	吉田 7~8
○ネイチャー通信	金崎 9~10
○遷移のはなし	城内 11~12
○リレーエッセイ	松原 13~14
○笑顔で・・・	稲垣 15~16
○編集後記	17

## 雪・雪・雪

今回原稿依頼とのことでテーマは雪。雪といえば、なんだろう。  
雪といえば私は結構雪が好きだ。寒いのは苦手だし(肩に力が入るのかなにせやたらと肩が凝る)、スキーはやらないというかできないのだが、粉雪とかぼたん雪が降っているのを見るとなんとなくうれしくなる。特に夜に雪が降っているのを見るのが好きだ。街灯のあかりに照らされているところだけに雪が降っているかのような錯覚に陥ったり、こたつに入っていてふと気がつくとき周りが妙に静かになっていていつものまにか雪がしんしんと降っていたり。  
新雪のまだ誰も足を踏み入れていないところを一步一步すすんでいくのは最高に気持ちがいい！  
雪の積もった枯れ木林の中を歩くのは気持ちいいだろうな。体力のない私にとっては生死に関わる気がするのでまだ歩いてみたことはないけれど・・・  
蔵王に行って樹氷も見たいし、北海道で流氷も見たい。ぜひ碎氷船に乗りたい。

などなどつれづれに書いてみたけれど、結局は体力つけなければできないことの多さに気付いたりして。今までできなかったのはそのためか。これからに期待してみよう。

2/8に室池にて雪に降られて肩が凝りまくったけど、  
ちょっとうれしかった北村でした。(4期)





# ゆきのはなし

今まで生きてきた中でゆきについてふ  
りかえってみました。

その① 確かあれは高校生だ、たころ…。私には夢をたくさん話  
しあった友達がいました。夢といっても本当に夢見がちな  
なことをですか。

朝、めさめると庭一面が真、白な雪でおおわわていま  
した。なせだかすごとすごと感動して、私はおそわす  
その友達にTELしてしまいました。「外、みごらんって。  
そしたら、その友達も「TELしよう、ておそ、てたんは「お、て言  
ていました。ただ雪がふも、てるだけなのに、こうして感動  
できる心、伝えよう、て思った心をおもいだすと、あ～あの  
頃は、こんなこと考えてたんだと思て、あごとおカオカと  
あたたかい気持ちになります。時の流れには4747ほろ  
ろが…。ゆきはとも偉大な力をもてると思いませんか？  
(自然)

その② しもん 誰か雪を便、てのアイスクリームのつくり方を知りま  
せんか？昔ポンキッキでやっていた気がします。

しもん 雪がふぶいている時なせ上を向くと雪がく  
ろくみえるのですか？

その③ “ゆき”といわれてなせだかとも不思議な107-をモ  
らえるような気がする。私は、このうたが大好きでした。  
LOOKのB Ring! Ring! Ring! です。

しもんのわかる方、その③の曲がききたい方は、

4期 山下ルミ子 までよろしくおねがいします。

## 雪が降れば

4期生 角野和彦

先日のFW、むろいけ園地では、時々、雪がちらついて、さらに、風が強く、ふぶくときもありました。私のうちは、茨木市でもちょっと山にはいるので（決して山奥ではない）その日は、うちでも、時々、雪が降っていたらしいです。うち＝むろいけ園地ではありませんが、似たところでしょうか？しかし寒かったですね。

雪が降るとワクワクする人もいますでしょう。私もそうですが。山の中に住んでいるので、都心部でも積もりそうな時は、うちでは結構積もります。特に、夕方から降り始めると可能性は大。見る間に積もっていくときもあります（とは言っても、年に1回程度です）寒がりの私にとっては、極力外に出たくはありませんが、最近では、雪が降れば、積もった雪の結晶を見るようにしています。結晶はいろんな形があるそうですが、いつも一緒の形しか見られません（FWの次の朝に若干変化した結晶を見ました）それから、どのくらい積もったのか気になるくらい降ると、積もった高さを測ってみる。積もった量を測る基準点は、門柱の上です。ものさしは使わず、指で測る。なぜか、いつも人差し指の長さである。いい加減と言えばいい加減です。夜が明け、朝にあたり一面真っ白になっていると、積もるとわかっていてもびっくりしますね。朝日をあびて、きらきら光っているのを見ていると、ふと時間を忘れてしまいそうです。冬の枯れ山も、一時、美しさを取り戻したように思える。ふだんと変わらない山が、雪の飾りで美しく見える。山や木々は雪があると感じが全然異なりますね。雪化粧とはよく言ったものだ。

しかし、こんな景色も、家から見るのがほとんどである。街から山はどのように見えているのだろうか。昼間であつたら、職場から見て、山に雲がかかり、白いもやのようなものが覆われていると、雪が降っているなどと思いますが、朝に山に積もった雪を遠くから見るができないのが残念。きっと素晴らしいだろう。

まあ、雪が降るとのんびりとこんなことをしています。もしかすると、雪に埋もれているかもしれませんので、消息の確認の電話をして下さいね。

以上 北摂の山支局特派員からでした。

今までの「雪」との思い出をたぐってみると、雪と遊んだという体験よりも雪とたたかった体験の方が多いことに気付いた。幼い頃からこわがりだったので、水も雪も、恐る恐る近付いてそっと触れてみるような存在だった。小学校の雪合戦の時も、雪と遊ぶというよりは雪と力一杯たたかうといった感じで、初めてスキーの板を履いた時も、滑る雪の地面と格闘していた。金剛山雪中登山でも、行きはえんえんと続く雪の階段、下りは滑る雪の坂に、精一杯抵抗していた。雪との思い出といえばこんな体験ばかりが思い出される。抵抗するばかりじゃなくて、受け入れて身を任せたほうがいいこともある、とは思いつつも、幼い頃からのこわがりなかなか抜け切れない。たとえば山を登っている時、降りている時、山に一生懸命抵抗しているのに気付く。

水や雪、氷、動物、山など、自然をこれほど恐がり、嫌がった私が、なぜ今、自然を相手にするパークレンジャーを自ら進んでしているのだろうか。それはたぶん、自然というものが、時には私に喧嘩をふっかけてつつ、時々ほっとさせてくれるような、そんな性格をもっているからではないかと思う。自然は厳しいときもあるけど、やさしいときもある。自然の中において、しんどいときもあるけど、気持ちいいときもある。今までの雪との思い出も、決して嫌な思い出ではない。それどころか、懐かしく思い出されて、雪合戦、スキー、雪中登山などに、また挑戦してみようかと思っている。

雪は、私にとって、そんな友達みたいなものなのかもしれない。



松澤 昭仁

この度、“雪”について何でもいから書いて下さいと依頼を受けたわけですが、多分“ゆき”と言う女の子の話題を書けば、松澤らしいなと言われそうですし、真面目に語れば柄にもなくと言われそうです。うーん、俺はどっちにすれば良いんだ~~~~！！と悩んでしまったので、これから、徒然なるままに書いて行こうと思います。

松澤にとって、雪と聞いてイメージされることは、目標であります。何故か??それは、自分の目標って、大体は結構ちっぽけなものですよね。そのちっぽけな目標を達成したら（手に掴んだら）、それは新たな目標を生み出します。これって、自分の目の前に降ってくる雪そのものですよね。だって、小さな粉雪（目標）を手に掴んだら（達成したら）、それは掴んだ途端、溶けて水になり自分の体温で蒸発し天に帰り、また、新たな雪（目標）として自分の目の前に降ってきます。（つまり、新たな目標が生み出されたわけですね。フムフム！）松澤は、そう考えているんです。そして、イメージはさらに膨れ上がり、次のように展開されていきます。

人間って、目標を多く達成したら、それらが自分の財産となり、魅力ある人格が形成されていくと思いませんか?そして、自分がとんがって生きていたらそれに気づかないし、ましてやそういう時って、目標もなかなか達成できませんよね。やはり、気持ちに余裕があり、人を包み込むようなまるさがあって初めて気づくものですよね。これって、次のように松澤は、イメージしてしまいます。

雪（目標）はアスファルトの上では、降り降りた途端溶けてしまい、なかなか積もりません。これは、アスファルトが雪のエネルギーを包み込むことができないからです（つまり、とんがっているんですね）。しかし、土はその反対で、降り降りた雪をそっと包み（つまり、まるいんですよね。）雪を積もらせていきます。（勿論、少しずつ雪を溶かして、天にも返しています。）そういう時って、物事も上手くいき多くの目標が達成されるわけです。だから、松澤は、アスファルトではなく土のような人になりたいと、常々考えています。

あまり、言葉を知らないので自分のイメージを充分伝えることができたかどうか分かりませんが、まあ、雪と聞いて漠然と考えたことはこのようなことでした。

以上

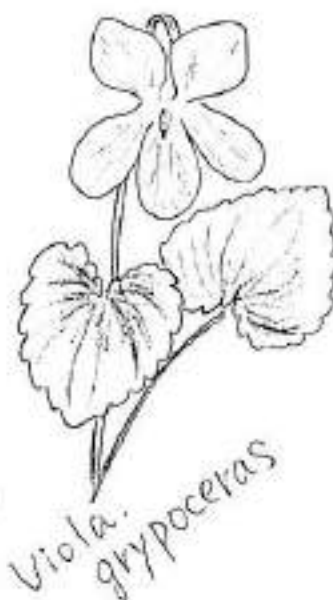
# 春の植物

1期 吉田 光方子

梅の便りを聞くと、まだまだ寒さは厳しいのに、気持ちは『春が来た!』と、ソワソワしてきて、フクジュソウやセツブンソウ、カタクリを見に出かけたくなってくる。しかし、昔は真山の雑木林で簡単に目にする事の出来た、これら春を告げる花連もニュータウンの造成や工場、ゴルフ場の開発もしくはマニアの盗掘といった様々な事情で次第に少なくなってきた、今では遠くまで足をのばさなければなかなか見ることが出来なくなってきた。こちら辺のことは、語ると長くなりそうなので、おいといて・・・今回は身近に観察できる、特にオススメの春の植物を紹介しましょう。この春、園地に出かけ、ここに載っている植物に出会う感動を覚えた人は、来年の今頃、私と同じ『春が来た!』症候群になっていること間違いなし、是非TRYしてみてください。園地に出かけられない人もせめて、図鑑で調べ春の雰囲気を感じましょう。

## ～タチツボスミレ (スミレ科)～

牧岡神社からなるかわ園地へむかう神津嶽コースの登山道脇に薄紫色の花をつけている。いわゆるスミレとは葉っぱの形が違い、ハート型をしているので簡単に区別できる。



## ～ヒメオドリコソウ (シソ科)～

シソ科の仲間らしい、ちょっと厚めの葉はミントに似ている。もしかしたらいい香りがするのかな? 今度、かいてみようっと。ちなみに、シソ科の特徴で茎は四角い。ついでに言うとヨーロッパ原産の帰化植物だそうだ。私が、チェックしたのは、四条畷神社からむろいけ園地へ続く登山道に入る前の群生地。ポーッと歩いてたら、見落としてしまうかも・・・。

## ～ショウジョウバカマ (ユリ科)～



むろいけ園地に2ヶ所群生地を確認しているが、今年はどうかな? とりわけ珍しいという程でもないが、掘り返された跡があるので、年々目にする事が少なくなっている。葉っぱは地面にへばりついたように広がり、常緑なので落ち葉の下を探せば冬でもスポットはわかるが、やはり春に花をつけると、ひときわ美しく、目立つようになる。私が気に入っているのは、花を咲かせた後に茎が伸びる、他の植物とは一風違った生長の仕方だ。

*Heloniopsis orientalis*



## ～ニワゼキショウ（アヤメ科）～

日当たりのいい芝生にはえているのをよく見かける。くろんど園地では管理事務所からキャンプ場に行く管理道左手側の少しひらけた場所に群生していた。小さく可憐な花なので見落としがちだが、じっくり見てほしい美しさを秘めている。しかしながら、北アメリカ原産の帰化植物である。



## ～セリ（セリ科）～

ご存じ、春の七草のひとつ。おひたしや天ぷらにして食べたときの風味がいいですね。きれいな水の流れのあるところに群生しており、むろいけ園地の温性花園にあるのをいただきました。ごめんなさい……。花は、白くて小さいので目立たないけれど葉っぱをちぎって揉むと独特の香りがあるので識別できる。食欲が先に立って忘れていたが、花は夏に咲く。

## ～エゴノキ（エゴノキ科）～

下ばかり見て歩くのは楽しくない。たまには、木を見上げてみよう。清楚な白い花が下向きにびっしりとついているのが目に入るだろう。多分、むろいけ園地、もしくはなるかわ園地だったら、採せるはずだけど。

私の独断と偏見で春の代表的な植物をピックアップしてみました。これを選定するにあたり、過去5年間のフィールドノートを久しぶりに読み返したらその時々光景が思い出され、懐かしくなり、作業は遅々として進まず、締め切りばかりが気になり、時間切れの状態でも原稿を提出することとなりました。まだまだ紹介したい植物はたくさんあるのですが……。以前は、よく出かけていたなるかわ園地に最近全く行っていないこと、ちはや園地には夏しか行ってないので春のデータがないこと、かなりむろいけ園地の情報に偏っていることなど反省点を上げるとキリがないのですが、レンジャーが1人でも多く園地へ足を運ぶきっかけになれば……。と思っています。私自身、大学に入るまでは、道端のいわゆる雑草なんて、どれが何かなんて区別がついていなかったけれど、名前がわかる植物が増えるにつれて、ゆとりの時間が持てるようになったように感じます。植物の名前を覚えるということに限らず、他人が気にもかけないような、ほんの些細な気づきにも喜びを見いだせる特技を持つことは、とつても贅沢なことかもしれません。レンジャーをやっていくうえではもちろんのこと、人生を豊かにするためにも“くだらない”などと言わず、この技術(?)を修得することをお勧めします。

# ネイチャー通信

1998年 立春号  
「バードウォッチングの巻」  
パークレンジャー きんちゃん

今回は「バードウォッチング」についてです。

府民の森を訪れる大多数のビジターは、「えっ！バードウォッチング？ 難しそう」とか、「鳥と言っても、ハト・カラス・スズメぐらいしか知らないし、普段見ることもないし」「紅白歌合戦の時に、双眼鏡を使って得点を教えてるやつ」ぐらいの興味・知識の人がほとんどではないでしょうか。

そのようなビジターに少しでも関心を持ってもらう一つの方法として、「本物の鳥でなくても、鳥の絵なら普段からよく見かけていませんか？」という問いかけを試してみませんか。たぶん、ビジターの方は「そんなの見てないよ」という顔をするでしょう。皆さんは気付かれたでしょうか、答えは『切手』です。誰でも、50円切手のメジロや80円切手のヤマセミは鳥の名前は知らなくても見たことはありますよね。



メジロ



ヤマセミ

こういった身近なところから、鳥に興味を持つきっかけづくりとしてみてはどうでしょうか。

切手も記念切手を含めればとても多くの種類の鳥が見られますが、ここでは一般的に使われている普通切手のみを紹介します。約22.5mm × 18.5mmのサイズの小さな図鑑のような美しい絵を、あらためて見てください。



オシドリ



キジバト



ヤマガラ



シジュウカラ



カルガモ



イカルチドリ



モズ



ウリ



イカル



カケス



現在 41 円、62 円、72 円の切手は発売されていません。

この 12 種類のなかで、あなたはどの切手を見たことがあるでしょうか、又いくつかの鳥を実際に見たことがあるでしょうか。この次の休みは、野鳥図鑑を持って私たちのフィールドである府民の森へ出かけてみませんか。

はじめに

私は大学で植物生態学を専攻していました。といっても、今4年生なので過去形を使うのにはまだ早いのですが、卒業後、この学問を続ける予定はないので、あえてこう書きます。大学に入る以前の私が、知っていた木の名前と言えば、桜や松（あえて漢字で）程度のもので、その知識は普通の小学生並みだったと思います。格別花を愛するわけでもなく、漠然と木についていいなという気持ちはありませんでしたが、だから勉強して一つでも多くの名前を知りたい、というのでもありませんでした。つまり、私が得た植物の知識は大学でのほんの数年に得たもので、それも主に植生の遷移についてかじった程度なので、きつと草原性の植物に関しては皆さんの方が詳しいと思います。しかし今回「遷移」についての原稿をと依頼されたので、多くの名著知識と私のなげなしの知識から、誠に僥倖ではありますが、植生の遷移の話をしたと思います。

遷移とは

前は空き地（裸地）だったのに、今では一面セイタカアワダチソウが生えている、というのを皆さんも思いあたると思います。これは遷移の1つです。遷移とはこのように時間の経過と共に安定したものの（極相）に向かって移り変わっていくことをいいます。例えば、ここに空き地があるとすると、「1年生の草本」が空き地で生育し始めます。その後1年生に代わって「多年生の草本」、「陽樹」、「陰樹」の順に侵入し、最後にはほとんど陰樹で構成する林を形成してゆ



1年生 → 多年生  
→ 陽樹 → 陰樹  
の順だよ！  
ア～メン！！



きます。このような自然の原理による遷移を一次遷移といいます。それに対して、植生は破壊されると復元しようとする性質がありますが、この復元過程を二次遷移といいます。ススキの草原や里山（アカマツ・コナラ林）を保全するために、人の管理が必要なものは、放置しておくとも一次遷移がすすみ、やがては消滅してしまうからです。しかし、過度の伐採や利用は遷移の方向を逆戻り（逆行遷移）させるし、環境（土壌・光・他の種）要因によっても遷移の進み具合は変わってゆくのです。



森の遷移

7つの府民の森には、「植林」「アカマツ・コナラ林」「シイ・カシ林」などこの地域に見られ得る林はすべてあるのではないかと思われれます。ただし、部分的に植樹したところは、ほぼ自然林と考えて下さい。

「アカマツ・コナラ林」は、アカマツ、コナラ、ナツハセ、ネジキ、コバノミツバツツジなどで構成され「陽樹」が多く見られます。

「シイ・カシ林」は、ヤブツバキ、ヤブニツケイ、ネズミモチ、カナメモチなどで構成され「陰樹」が多く見られます。

つまり、「陽樹」から「陰樹」へと遷移してゆくことから、「アカマツ・コナラ林」はやがて「シイ・カシ林」に遷移してゆくと考えられます。

「植林」は、主にスギ、ヒノキがまとまって生育しているところですが、今では管理が行き届いていないところが多いので、やがては「陰樹」の多い「シイ・カシ林」へと遷移してゆくと考えられます。

構成する植物はいろいろだけれど、基本的にはシイ・カシ林だよ！



「府民の森の遷移状態を知るためのヒント」

すべての植物を見分けることができなくても、林の特徴や代表種（標識種）を覚えることで、だいたいの遷移状態を知ることができます。

【アカマツ・コナラ林】は林床が明るいいため、草原性の植物（スキヤワラビ）やコシダ、コウヤボウキなどが生育することが多い。そしてアカマツはより乾燥に耐えるため尾根筋に、コナラはやや湿った谷筋に沿って広がることが多い。ほしだ園地の尾根筋には林床にコシダが生育する典型的なアカマツ林が見られる。

【シイ・カシ林】は照葉樹林といえ、常緑樹が多い。そして、テイカカズラやサネカズラ等のつる植物、マメツタなどの着生植物（樹木や岩の表面に固着して生育する）が多いのが特徴である。（ただしサルトリイバラはどこでも生育するので注意）くろんど園地にはこれに近い林があると思われる。

【植林】スギやヒノキがまとまって生育しているところは、ほぼ植林である。最近では管理が行き届かず、他の種と生育しているところが多い。植林樹には他に、椎茸のほだ木としてクヌギ、砂防用としてニセアカシア、ヤシヤブシなどがある。

府民の森の全てに行っていないので、詳しい話ができませんでした。これをヒントにして（しなくてもいいけど）府民の森の林が何林あたるか、調べてみて下さい。

「最後に」

植生の遷移について色々、ごちやごちや述べてきましたが、いかがでしたか？わかりにくいところも多かったと思いますが。温暖な地方では照葉樹林に、寒冷な地域では主にブナ林へと遷移してゆき、このような極相に近い林ほど生物の多様性に優れているといわれています。だからといって極相が良いというものは当然ありませんよ。

有名な話ですが、以前京都でアカマツ林の保護をするのに、人間を立ち入り禁止にしたら、アカマツが駄目になったという話があります。この例をとってみても、遷移の知識は保護の観点からも非常に重要な知識といえると思います。

私は大学生活のほぼ2年をかけて、アカマツ林の初期遷移を見てきました。貧栄養で乾燥した土地に植物が侵入してくるこの時期は、林の遷移の様子をもっとも捉えやすい時期だと思います。私はこの研究で、植物が遷移の過程で、し烈な生き残り競争をしていることを実感し、多くの敗者（枯れ葉や木）の上にもまた新たな命を誕生させながら生きていく森の姿を知ることができました。

遷移の研究は、今日では様々ななされて、多くのことが解明されてきています。だからといって専門的な知識は必要ないと私は思っています。ただ、遷移のことを知るとは、森の立場で森を見ること、考えることにつながり、このことが、森と人間の共生の第一歩だと私は思うのです。



森の視点を持つことで  
身の森への気づきもめざそう  
うん！うん！  
さあ！さあ！！

# I am cook !

1998. Feb

4期R 松原 万由美


クックはご存知、私のイベントネームであります。

よく、イベントの料理を担当することが多かったのでこの名前にしたのですがこう見えて本当に料理は大好きなのであります。もちろん、食べることも好きだけれど…。作れば創るほど料理というものは、奥の深〜いものである。

最近凝ってちよくちよく作っているのは『パン』であります。

“これがまたおもしろい！”



時間は確かに少々掛かってしまうけれど、作ってみると案外簡単でなによりも「美味しい!!」のであります。ただ材料を混ぜて“パンパン!”と繰り返して打ち(だからパンっていうの?)、生地をまとめて発酵させて、4倍程に膨れたら(この膨れた生地の感触がなんとも気色良いのである!!)切って形を整えて後は焼くだけ。きれいにふっくら焼きあがったパンを取り出す時は、いつも感動ものなのだ!!  etc... おまけにとってもいい香り。手作りのパンを食べ始めると、「もうスーパーのパンなんて食べられない！」と思う程である。

しかし料理とは不思議で、これまたおもしろいのが、例えばこのパンを作る時に、「オリヤ〜! これでもか〜こんちくしょうー!!」と、うっぶんを生地に込めて打つと確かに多少なりとも心は晴れるが、出来上がったパンの味はおいしくないのである。それが「おいしく、ふっくら焼きあがれ〜トルン」なんて作ると、フワフワふっくらと焼きあがってももちろん味もVery Good!

おまけに材料を有機栽培物なんかにすると、驚く程もちっとした美味しいパンが出来るのである。これはもちろん、普通の料理にしても同じで、けんかをしながら作った物や怒られながら食べる料理は、みんな経験があると思うけれど…「ますい」もんです。料理には、作った人の心や雰囲気味が味になって現れるのだ。そもそも“食”について考え始めたというか気付き始めたのは、体調を思いっきり崩してから。実に、約1週間で6%程体重が減ったのには驚いたし、参った。頬がこけてきて、「どこまで痩せるんだろ〜…」とふらふら歩いていたのを今でもはっきり覚えている。そんな中、会社を辞めてすぐに岡山の田舎の外れにあるとあるペンションに住み込みで働くことになっていたのだが、朝から晩まで超ハード。こんな身体で大丈夫か?と心配をしたものの、ところがどっこいおいしい空気と良い環境、近所で取れた新鮮な材料を使ったペンションの奥さん美味しい料理で約2週間で体調はすっかり戻り、今度は逆に太っていったのであります。ここでは自然に色んな意味で色んな人から“食べることの基本”を学んだのです。

玄米から皮付きのまま食べる野菜の意味、出来るだけ自然のままのおいしさを引き出して作られた工夫たぶりの料理など、今まで食べたこと、考えていなかったことを毎日の生活の中で自然に教えてもらったのですが、そのときはそのおいしさと色んな工夫にただ感心して楽しんでいただけで、今になってようやくその意味の深さをつくづく考えさせられている。

カナダに一匹うさぎで飛び込んで行った時も、毎日のステイ先の料理の中でお母さん（イギリス出身）が魚の煮付けを作ってくれた時には、涙がちょちょ切れそうになったが、半年の間に大関程にまで太り、その後1人暮らしで自炊による日本食で自然に痩せたのである。“日本食ばんざい！”でありました。

が、その後旅行をしたり住家を転々と変えたため、食事が大分おろそか・不規則になる日が続くと…いくら染めても決して染まらなかった黒い髪が、自然にまっ茶になって、日本に戻ってきた時には、みんなが驚いたのでありました。ちょっとした栄養失調になっていたのである。確かに痩せてたし。

そうそう、とあるパーティーで韓国の生徒さんが家庭料理を作ってくれた料理がことのほか塩っ辛くなってしまっ、それでも気にせず食べていたら自立神経にきてしまったこともあった。そんなこんなで、こういったことを体験してきた色々思っていたら、たまたま今の職場では自然について、食品について等の色々な環境問題に関わる勉強を行っているので、“食”について考えていくのは“使命”？なんて思ってしまうのである。でも、なにより料理は“好き”だから。ルディイダ！

最近、訳のわからん遺伝子組み替え食品だとか、この世の中に無くてはならなくなっている添加物など、色々なものがあり過ぎるくらいあるけれど、昔ながらの農家さんや、自然のままに生活している人に色々聞いてみると“ピン！”と来ることがたくさんある。自分よがりではあるが、ついイベントの時にも食事については『子供たちに、少しでも自然の美味しいものを！』と、力が入ってしまう。みんなもそうだと思うけれど（もちろんお母さんも）、料理をしている時はいつも真剣に愛情をたっぷり込めて作っている。去年のJr.キャンプのときに作った野菜スープは、調子をこいてたっぷり作り過ぎて「野菜スープだし、残るかな～」と思ったのもつかの間、自分の分が当たらないほど好評で、子供たちの「おかわりちょうだい!!」という声は心の中に嬉しく響き渡ったのは言うまでもなく…。うれしかった。“おいしい！”の一言は、なによりの誉め言葉である。

子供たちだけでなく、昔の味を忘れてしまった大人の人にも、出来るだけ自然の良さ、おいしさを味わってもらいたい！と、日々願うのであります。

～そして、将来は大自然の中、自給自足で暮らすんだい!!～



いま老人ホームに勤務しております。そこで何をしているかというと「生活指導員」ということをしており、入居している老人の（字の如く）生活の指導が職務の主な内容となっています。（それより、まず自分の生活は？と言われそうですが・・・。）要は、各種の役所の手続きや届け出などについて関わっているといえるでしょう。

そんな仕事の中の話です。つい最近ですが、入居の老人が同じ日に3人入院した日がありました。僕もその2人の入院に立ち会いましたが、そのときでした。1人については、あらかじめ日程を決めての入院でしたので、特に何もありませんでした。

もう1人のじいちゃんのことです。数日前から風邪気味でしたが、部屋で安静にしていたのですが、熱が続くということで、病院に連れていきました。その病院は救急指定病院と言うこともあるのでしょうか、患者で溢れかえっていました。

待って、待って、待ち続けました。

しかし、診察を受けることもできません。一緒に行っていた看護婦さんもしびれを切らし、何回も聞きに行きますが、「もうちょっと待ってください」の一言のみです。おおかた3時間ほど待たされたのでしょうか。やっと診察をしてもらうことができました。もちろんそれまでの間にある程度の検査はしてもらっていましたが・・・。結局両方の肺が炎症を起こしており、即入院となったのですが、そこに至るまでが今回書きたいことでもあります。

病院内を見れば当然誰もがわかっているのですが、人が多くて時間がかかる、そのことに対して誰も文句は言いません。そういった待合いコーナーを病院の職員さんや、Dr. が歩いて行くわけです。そこでの光景は忘れることができません。歩いている視界に入っているのですが、しかし、「目に入っていない」とでも言うのでしょうか、ほとんど、患者さんたちを無視して過ぎていくのです。特にDr. に至っては、ポケットに手を突っ込んで「肩で風を切って」といった雰囲気です。いったい何を考えているのだろうか？腹立たしくもありました。

「もうちょっと待ってね」「遅くなってすいません」どんな一言でも良いはずですが。声をかけることで、患者側からしたら「忘れられているわけではないんだ」と確認することもでき、たとえ長い時間を待ったとしても、ちょっとは我慢できるもんです。

おかげで、家族の人など、どの人も、ある種殺気だった雰囲気が漂っていました。

これが、結構名の通った病院での出来事です。特にホスピスでは全国的にも



「進んでいる」と言われている所ではありますが、「いったいどうなっているの？」と言わざるを得ません。（病院名が特定されてしまうかもしれませんが）

どんなときにでも言えるのでしょうか・・・。関わる人に対してどんな風に気をつけるか？どのように思っているのか、といったことでしょうか？「思い」を持っているなら、自然と言葉が出てくるはずでしょう。そんなことを痛感しました。それが、友達に対してであっても、家族に対してであっても、勿論恋人に対してであっても・・・。大切なはずですよ。

あなたのこと考えたら 景色のむこうに  
見えてくる全てのものに感動になる  
今まで気付かず しまった優しさが  
少しずつ少しずつ 広がってくる

にぎわう街 ゆきかう人のどこにいても  
あなたの顔 埋とじたら見つけられる  
楽しいできごとが 二人を分けるなんて  
どうしてもどうしても 想えないの

あなたの全てを信じてる  
いつでも笑顔で愛してる

どうしてなの 隔ざしがまるでかけるように  
すれちがって 迷子のままで立ちつくした  
こわれたコトバだけを 離って泣いたりした  
痛いほど痛いほど 痛ついても

あなたの全てを信じてる  
いつでも笑顔で愛してる

出合いのキクシャクが 不安でとばしすぎた  
フル・スピードの思いを今 抱きとめて

あなたの全てを信じてる  
いつでも笑顔で愛してる

想いは静かに膨らんでる  
いつでも笑顔で愛してる

（笑顔で愛してる／憧れとこ）

# 編集後記



乙っさしぶりの「IPWS 森のつらね」  
 本日はからか 長〜い 沈黙のもとに  
 やとやとの オリジナルでした。  
 作業を朝9:00までに終えて これから  
 4人で 飲みに行ける！  
 手間は もうすぐ 春 ですね。  
 私の心にも春が 欲しい…  
 春過ぎて 桜 散りは 綺麗が 悪いな。  
 きんちゃん

乙っさしぶりの編集作業!!  
 今回は原稿もあり、来年度の打合せもあり、  
 3月のイベントもありの、忙しう忙しいから  
 日々が続いたけど もうすぐ春 早いなあー  
 みなさん春を楽しみましょう

夢野のかわらぬこ

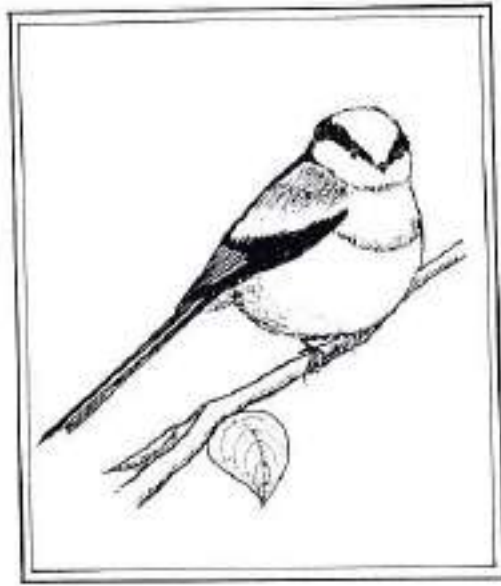
このころ、おやく、園形もおおしく  
 できて、回復してきた体調ととくと  
 「どか行きた〜!!」  
 と思えるおりにおりました。  
 「今度光」  
 と思いつく、行けてないところへ、足を  
 のおして…。  
 はじけるおりに、動きまわりたい  
 今日この頃です、  
 乙っさしぶりの会報、おおしおではお  
 すが、編集作業、おのしゅうでござい  
 ました、おのしゅうの（遠くへおあげしてい  
 たら、おと、おい、お…。  
 というおと、おのしゅうでもおのしゅう、  
 おのしゅう、おのしゅう



今回、表紙ロゴを変更させていただきました。  
 また、中（わくの中）の絵も、担当したおのしゅうが、おのしゅうにしてみました。  
 さて、この鳥は何でしょうか？  
 編集会議に来る前に、大阪城公園へ行き、おのしゅう、鳥見も楽しんでました。  
 ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、スズメ、ツグミ、コゲラ、ヒヨドリガラス、ヒヨドリガラス、シジュウカラ、  
 ユリカモメ、コガモ、マガモ、カイツブリ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カワウ 計16種。  
 (おのしゅうの2時間程おのしゅうが、おのしゅうに見るおのしゅうが、おのしゅうと思おのしゅう。  
 府民の森もよし、遠くのおのしゅうもよし、また近場のおのしゅうもよし。  
 みんなで、手近に自然と親おのしゅうしようよ!

今回はおのしゅうのおのしゅうバージョンのIPWS。  
 出来上が、おのしゅうおのしゅう。

Kowal



1998. 2. 26. 発行